

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

百年の伝統と実績の上に立ち、グローバル社会において真のリーダーとして世界に貢献できる人物を育成する学校。

- ◎ 基礎から発展まで「生徒が思考する授業」、「力のつく授業」を展開し、3年間を見通した進路指導により生徒の希望進路を実現する。
- ◎ 日々の授業、行事、国際交流を通して、「自主・自律」を体現する生徒を育てる。
- ◎ 地域に信頼され尊敬される品格と豊かな国際感覚、人権感覚を有する生徒を育てる。

2 中期的目標

世界に貢献できる人物を育てるため、生徒につけたい力を定め、その実現へ向けた取り組みを行う。

【5つのつけたい力 (Five Sumiyoshi Qualities)】

- 1 将来を見通せる深い洞察力と世界を見据えた視野の広さ
- 2 異文化を受け入れることのできる包容力と人権感覚
- 3 理念を行動に移せる実行力と他者と共に取り組む協働力
- 4 世界で通用する語学力とコミュニケーション能力
- 5 柔軟な発想と探究心により課題を発見し解決する力

1 学力向上と進路実現

- (1) 生徒の自己実現を図るための学力、体力、気力の育成
 - ア すべての教科で「つけたい力」と「具体的方策」を明確にし、学校全体で共有し評価する。
 - イ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を推進する。
 - ウ 3年間を見通した進路指導を着実に実行する。

※ 国公立大学合格者 100名以上 (R02 62名、R03 67名、R04 76名)

2 国際・科学高校としての質的な深化

- (1) 国際文化科と総合科学科のさらなる進化・発展
 - ア 両学科が共に取り組む課題研究を深化させる。
 - イ ルーブリック評価によって生徒の思考力、表現力等を向上させる。
- (2) 世界で通用する語学力とコミュニケーション能力の育成
 - ア 授業や行事を通じた「使える英語力」をさらに向上させる。
 - イ 対面とオンラインを有効に活用し、国内外の高校生と交流を深める。

(3) SSH、ユネスコスクールの取り組みの充実

- ア ①課題研究の質的向上 ②国際共同研究 ③小中高大・産学連携 ④卒業生による「住高支援ネットワーク」を充実させる。
- イ ユネスコスクール加盟校として平和学習、人権学習を充実させる。

※ 学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」90%以上を維持する。(R02 94%、R03 93%、R04 93%)

3 地域で信頼され尊敬される品格と豊かな国際感覚、人権感覚の育成

- (1) 人権を尊重する意識の向上
 - ア 人権 HR をさらに充実させるとともに、研修や情報共有を通して教員の見識を高め、きめ細かな相談支援体制を確立させる。
- (2) 生徒の自主的な活動の充実
 - ア 自治会活動、部活動をさらに充実させる。
- (3) マナー・規範意識等の育成
 - ア 挨拶・清掃・遅刻指導を通して、生徒が自らマナーや規範について考える機会をあたえる。

※ 学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」90%以上を維持する。(R02 97%、R03 95%、R04 96%)

※ 各行事や取組の生徒満足度 90%以上を維持する。(R02 95%、R03 95%、R04 96%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【教育活動】授業について生徒の肯定的評価は昨年度、今年度共に90%、評価についても肯定的評価が昨年度94%、今年度95%と、高い結果であった。一方で「1人1台端末を効果的に活用している」(生徒)75%で他と比べて低いところが課題である。</p> <p>【学校生活】「困っていることには真剣に対応してくれる」は95%、「担任以外に気軽に相談できる先生がいる」が78%と昨年より若干上昇した。「学校の指導は適切である」は生徒89%、保護者92%「人権について学ぶ機会がある」、「命について学ぶ機会がある」は生徒95%、94%、保護者94%、89%で、いずれも昨年とほぼ変わらない結果であった。生徒への新たな項目では「課題解決に向けて自分から取り組んでいる」90%、「人と違う意見を尊重できる」97%、「他の人と協力し合える」96%と探究心と協働する姿勢が非常に高い。</p> <p>【その他】「学校の施設・設備は、学習環境面で満足できる」は生徒82%、保護者75%であった。引き続き設備の維持管理が課題である。また、「社会貢献活動に関わることは大切だと思う」(生徒)97%、「地域や社会がよくなることに取り組んでいる」(生徒)78%と本校がめざす生徒の資質として評価できる。</p>	<p>第1回(令和5年6月29日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室へ向かえない子供や目標へ到達できない子供に対して、別室やオンラインでの単位認定や、挨拶と遅刻指導を一体化するなどの取り組みを用いた新しい挑戦が必要とされるのではないかと。遅刻数と学力・進学実績との相関関係や、遅刻が少なかった卒業生の進路との相関関係を把握することができればノウハウとして蓄積、活用できるのでは。 ・部活動に関する指導を強化して欲しい。OB・OGなどの外部の講師などを活用してはどうか。 ・子どもを介さず行事予定や、模試の申込期限なども保護者等に共有する方法を考えて欲しい。 <p>第2回(令和5年10月26日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学の志望が増えている要因は→これまでの指導の積み重ねと、担任からの声かけが要因の1つではないか。 ・SSW、SCについて→勤務形態が学校毎によって異なる。本校においては、配当数が少ない方である。去年からSSWが配当された。 ・時間外勤務減少に関しての具体的な取り組みは。→具体的な取り組みとしては、配布文書のペーパーレス化やフォーム作成ツールを用いた欠席連絡と、学校からの連絡に関してはメール配信を利用。一斉退庁日は、自習室と図書室を閉室し、16:45に生徒の一斉下校指導。 ・探究活動における両学科の現在の成果は→9月末に両学科で探究フェスティバルを実施。1年生はグループでの活動へと移る。事前にアンケートをとり、興味関心の近い生徒同士で10グループに分けて取り組む。両学科混在での取り組みのため、互いに良い影響があるのではと考えている。

府立住吉高等学校

	<p>第3回令和6年2月22日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営計画で「各年度の教育計画の作成に当たって、教職員で話し合っている」といった項目の数値の向上を目標に掲げていたがその意図は。→日々の業務の中でまとまった時間をとることが課題。研修を設けるなどして時間を設けたい。 ・国際交流などの活動による生徒の変化はどのようなものがあるか。→更に積極的に活動に取り組むようになった。活動に参加していない生徒に関しても、自らも積極的に活動に参加する意欲が見られた。 ・遅刻を繰り返す生徒を支援に繋げる方法としては。→実際に遅刻を繰り返す生徒の多くが悩みを抱えている。そのような生徒に対する支援を実施するための人員や時間が足りていない。 ・共通テストと私立大学の受験内容の差による、共通テスト受験の有無についてどのように取り組んでいるのか。→大学受験、ひいては今後の人生において幅広い選択肢をとるためにも、共通テストを含め、幅広く取り組むことを勧めたい。 ・探究活動に関して、外部接続をするうえで意識されていることは。→生徒の持つ積極性を引き出すために、様々な活動や既卒生との関わりを持つことで、積極性の強化をめざす。
--	--

本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 学力向上と進路実現	(1) 生徒の自己実現を図るための学力、体力、気力の育成 ア すべての教科で「つきたい力」と「具体的方策」の明確化	(1) ア・STEP UP LABO（授業力向上チーム）が中心となって公開授業を通じた授業力向上に取り組む。	(1) ア・公開授業週間を年に1回以上設定し、個々の授業改善に努める。[1回] ・授業アンケート「授業内容に興味・関心を持つことができた」「知識や技能が身に付いた」3.3以上を維持する。[3.4、3.5]	(1) ア・公開授業週間を年に3回(○) ・授業アンケート「授業内容に興味・関心を持つことができた」3.47「知識や技能が身に付いた」3.51(○)
	イ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進	イ・ICT推進委員会が中心となって1人1台端末の体制を整備し、タブレット端末を活用した公開授業を実施する。 ・業務の効率化を図り、教員の業務の平準化を促進する。	イ・学校教育自己診断「ICT機器がよく活用されている」95%を維持する。[96%] ・学校教育自己診断「1人1台端末を効果的に活用している」80%に[75%] ・時間外勤務時間(一人当たり平均)を5%減少させる。[246時間で3%減(4月～2月)]	イ・学校教育自己診断「ICT機器がよく活用されている」94.8%(△) →一定高い数値なので、さらに高い数値を維持するのは困難であった。 ・学校教育自己診断「1人1台端末を効果的に活用している」74.8%(△) ・時間外勤務時間(一人当たり平均)[288時間で1%増(4月～2月)](△)
	ウ 3年間を見通した進路指導	ウ・進路指導部が主導し、学年団と連携の上、3年間を見通した進路指導を実施する。 ・進路指導部が学校全体で調整、策定した進学講習を系統的に実施する。 ・模擬試験後、進路指導部と学年団が連携して分析会を実施し、模試の有効活用を促進する。	ウ・系統的な進路HRを5回以上実施する。[6回] ・進学講習を3年生は20講座以上[27講座]、2、1年生は15講座以上[23講座]実施する。 ・模擬試験後の分析会を5回以上実施する。[6回]	ウ・系統的な進路HRを8回実施(○) ・進学講習を3年生は24講座、2、1年生は20講座実施。(○) ・模擬試験後の分析会を5回実施。そのうち悉皆が2回。(○)

府立住吉高等学校

<p>2 国際・科学高校としての質的な深化</p>	<p>(1) 国際文化科と総合科学科のさらなる進化 ア 課題研究の内容の深化 イ ループリック評価の普及</p> <p>(2) 世界で通用する語学力とコミュニケーション能力の育成 ア 授業や行事を通じた「使える英語力」のさらなる向上</p> <p>(3) SSH、ユネスコスクールの取組みの充実 ア 課題研究の質的向上、国際共同研究、「住高支援ネットワーク」の充実 イ 平和学習、人権学習の充実</p>	<p>(1) ア・探究サイクルを一般教科等に取り入れ、課題解決型の授業を実施する。特に、文系科目（英語、地理歴史、公民、国語等）での実施事例を増やす。</p> <p>イ・SSHの課題研究で用いているループリック評価を普及させるとともに、評価についての研究を進める。</p> <p>(2) ア・暗誦、ディベート等の指導やSE（スーパーイングリッシュ）、SK（スーパーコリアン）等の授業、英語合宿、スピーチコンテスト等の行事を引き続き系統的に実施する。</p> <p>(3) ア・SSC（スーパーサイエンスクラス）をより活性化させる。 ・「住高支援ネットワーク」をより有効に活用する。</p> <p>イ・SDGsをテーマとした総合的な探究の時間、ユネスコスクール行事等を中心に平和学習、人権学習を充実させる。</p>	<p>(1) ア・国際文化科1・2年生の総合的な探究の時間で課題研究を実施し、その発表会を年間各学年1回以上実施する。[2回] ・探究サイクルを取り入れた教科の公開授業または事例報告を年間2回以上実施する。[3回]</p> <p>イ・学校教育自己診断「学習の評価は納得できる」90%以上を維持する。[94%]</p> <p>(2) ア・1年生で30人以上、2年生で60人以上がCEFR B1以上となるようにする。[1年生32人、2年生43人]</p> <p>(3) ア・国際共同研究を実施し、年間1回成果発表会を実施する。[1回]</p> <p>イ・学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」90%以上を維持する。[93%]</p>	<p>(1) ア・国際文化科1・2年生の総合的な探究の時間での発表会を年間各学年2回実施する。2年生は3回。(○) ・探究サイクルを取り入れた教科横断の公開授業2回実施。(○)</p> <p>イ・学校教育自己診断「学習の評価は納得できる」95.3%(○)</p> <p>(2) ア・1年生で96人、2年生で70人がCEFR B1以上(◎)</p> <p>(3) ア・国際共同研究の成果発表会を2月に1回実施。(○)</p> <p>イ・学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」94.4%。(○)</p>
<p>3 地域で信頼され尊敬される品格と豊かな国際感覚、人権感覚の育成</p>	<p>(1) 人権を尊重する意識の向上 ア 人権HRのさらなる充実ときめ細かな相談支援体制の確立</p> <p>(2) 生徒の自主的な活動の充実 ア 自治会活動、部活動のさらなる充実</p> <p>(3) マナー・規範意識等の育成 ア 挨拶・清掃・遅刻指導</p>	<p>(1) ア・人権教育推進委員会を中心として、人権HR及び教職員研修の一層の充実を図る。 ・支援委員会、帰国渡日生を支援するGL(グローバルライフ)委員会、教育相談会を中心に生徒の支援体制の全校化を引き続き行う。</p> <p>(2) ア・自治会部を中心に生活指導部、学年団等と連携し、生徒が主体的に行う体育大会、学園祭等の行事やコンテスト等への参加を充実させる。</p> <p>(3) ア・生活指導部を中心に学年団と連携し、遅刻指導、自転車等のマナー指導、挨拶指導等を通して、生徒が自らマナーや規範について考える機会をあたえる。 ・保健部を中心に学年団と連携し、定期清掃、大掃除時の取組みを強化する。また、定期的な換気や消毒により、校内の感染防止対策を行う。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」90%以上を維持する。[96%] ・学校教育自己診断「担任以外にも相談できる先生がいる」80%以上にする。[77%]</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断「学校行事には楽しく参加している」90%以上を維持する。[96%]</p> <p>(3) ア・学校教育自己診断「学校生活についての先生の指導は適切である」85%以上を維持する。[93%]</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」94.5%(○) ・学校教育自己診断「担任以外にも相談できる先生がいる」78.1%(△)</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断「学校行事には楽しく参加している」96.8%(○)</p> <p>(3) ア・学校教育自己診断「学校生活についての先生の指導は適切である」89.4%(○)</p>